

第14回 たま エンド・オブ・ライフ・ケア交流会 報告

「エンドオブライフケアにおけるリハビリテーション ～その人が最期まで望み通りの生活を送るために～」

2018年12月1日(土)午後、国立看護大学校（東京都清瀬市）で「たまエンド・オブ・ライフ・ケア交流会」を開催しました。近隣の病院・療養所・訪問看護事業所・教育機関から看護師・理学療法士15名が参加しました。今回は、エンド・オブ・ライフ・ケアにおけるリハビリテーションのあり方と、その人が最期まで望み通りの生活を送るための支援、コンフォータブル(安楽)な体位変換と一緒に考え、参加者同士の演習で学び合いました。



話題提供①：

「コンフォータブル(安楽)な体位変換を目指して 一看護師の視点から」

救世軍清瀬病院 緩和ケア認定看護師 川崎 遥 氏

コンフォータブルな状態とは何かを確認し、日々の実践で工夫できるスマールシフト、スマールチェンジ、安楽な移乗法などについて紹介がありました。

参加者の意見交換・感想

- 変化しやすい状態の患者さんに、心地よく過ごして頂くための方法を具体的に学ぶことができました。
- 2人ペアで互いに動作を体験し、患者さんの実際の動きを実感できました。これまでの自分の介助法と、新しい方法の違い・改善点を知ることができました。
- 気軽に話し合える、暖かい雰囲気で楽しかったです。

話題提供②：

「ここちよく動く

—理学療法士の視点から—

救世軍清瀬病院 理学療法士 白木 美代子 氏

体位変換による生理学的影響、筋・神経系の機能、心身への効果を復習しました。

演習：

参加者同士が、互いに体位変換や移乗を体験することで、心地よいと感じる感覚やタイミングなどのコツを試行し、効果を実感することができました。



司会
国立看護大学校
飯野京子

ファシリテーター
シャローム病院
相良君映

交流会からの挨拶
国立看護大学校
綿貫成明

次回 第15回交流会のご案内
2019年3月30日(土)14時 於 国立看護大学校
詳細は <http://tama-elc.umin.ne.jp/> もご覧ください。

次回もお待ちしております。

たまエンド・オブ・ライフ・ケア交流会世話人
相澤佳代子・安西裕子・飯野京子・大石恵子・川崎遥・
相良君映・長岡波子・野上智絵・綿貫成明(五十音順)